

◎評価シート（平成30年度）

記入日 平成31年 3月14日

平成30年度実施した協働事業について、提案団体と事業担当課において、下記の内容により互いに評価を行うことで、意思の疎通を図り、今後の事業実施等に活かすため、ご活用ください。

団体名 (記入者名)	阪南吹奏楽団 (寺島 達久)	事業担当課名 (記入者名)	学校教育課 (井谷 匡志)
事業名	阪南市フレンドシップコンサート		
事業開始年度	平成26年度～		
提案の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民自由提案部門 <input type="checkbox"/> 市設定テーマ部門		

1. 事業概要

(1) 事業目的・目標

阪南吹奏楽団の団員が習得している楽器演奏技術を子どもたちに伝えることで、音楽を通じた世代間交流をするとともに、子どもたちの向上心を喚起し、文化活動に対する意識を育み、青少年の健全育成を図る。

(2) 事業費の負担額

団体	0 円
市	0 円
合計	0 円

(3) 実施した内容

吹奏楽部員の個人における演奏技術の向上と全体合奏での仕上がり制度の向上。
コンクール参加校の楽器搬入支援、イベント参加校の楽器搬出支援

2. 事業の評価

※評価点（3段階）

3	2	1
できた	概ねできた	できなかった

(1) 協働性

評価項目	評価点 (3段階)		
相互に理解し合い、対等な関係が築けたか。	③	2	1
事業全般を通じて十分に協議を行い、行政と十分な意思の疎通が図れたか。	3	②	1
責任の所在や役割分担は、適切であったか。	3	②	1
相互に相手の強みを事業に活かすことができたか。	3	②	1
それぞれ単独で実施するより、より効果を生み出すことができたか。	③	2	1

(2) 実現性・有効性

評価項目	評価点 (3段階)		
	3	2	1
協働の形態（委託・共催・事業協力等）は適当であったか。	3	②	1
事業を実施するのに、十分な実施体制をとっていたか。	3	②	1
関係する多様な人たちを巻き込めたか。	3	②	1
予算は妥当だったか。	3	②	1
参加者、受益者は意図した人たちだったか。	③	2	1
参加者、受益者の満足度は得られたか。	③	2	1
予定した成果は上がったか。	③	2	1
地域のまちづくりやコミュニティ形成に役立ったか。他の地域のモデルとなり、普及したか。	3	②	1

(3) 実施してよかった点・どのような点にメリットを感じたかなど

団体 にとって	中学生に吹奏楽の楽しみをより深く理解してもらう事により、高校生、社会人になっても演奏を続けてもらえる生徒を育てることができた。
市 にとって	阪南市以外の学校では、演奏技術の向上のため外部から謝礼を支払って指導者を招いて指導を受ける学校が多い中、阪南吹奏楽団のボランティアによる技術支援を行うことができた。
市民 にとって	中学生のより高い演奏を多くの阪南市民の方に鑑賞していただくことにより、中学生の心の成長を促すことができた。

(4) その他、評価点の理由や課題・その改善点など

<p>*今年度から鳥取中学校と鳥取東中学校のそれぞれの吹奏楽部が、吹奏楽コンクールへ参加するようになった。以前までは7月末のサマーコンサートに合わせた動きをしていたが、コンクールへ参加となると、おのずと目標は金賞の受賞が目標となる。金賞受賞への技術的な手助けが必要になると考えている。</p>
--

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案事業継続 提案事業以外) 休止または終了
 市が単独で実施 団体が単独で実施
 その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かし発展させるのか。また、団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容など補足事項を記入してください。

* 今後も技術支援という形での事業展開となる。
* 阪南市内で、中学校とジョイントで吹奏楽フェスティバルのようなイベントの開催を考えている。学校現場と相談を行っていく。